

特集論文の公募のお知らせ

2025年度日本選挙学会年報編集委員長
境家史郎
2024年度日本選挙学会査読委員長
岡田浩

○特集「2024年衆議院総選挙」

2025年度年報編集委員会は、『選挙研究』41巻2号(2025年12月末刊行予定)の特集として「2024年衆議院総選挙」をテーマとすることに決定いたしました。この特集は、編集委員会からの依頼論文と、会員からの投稿論文で構成する予定です。

これまで『選挙研究』では、日本の国政選挙をたびたび特集のテーマとしてきましたが、2024年10月に実施された衆議院選挙はその結果からみて、特に取り上げるべき重要なテーマであると考えます。連立与党が過半数割れに追い込まれた今衆院選は、今後の政局の展開によっては、自民党一党優位制を揺るがす契機となった選挙として歴史に刻まれる可能性があります。さまざまな研究者がさまざまなアプローチにより同選挙を分析し、記録を残しておくことが、選挙研究一般の発展に寄与するだけでなく、日本政治研究の観点からも大きな意義を持つことでしょう。

そこで本特集では、分析手法を問わず、幅広い視点(選挙そのものだけでなく、そこに至る経緯や各党の動向なども含む)からの「2024年衆議院総選挙」研究を募集いたします。会員の皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

投稿締切日 2025年4月13日(日)

投稿要領、執筆要領については以下のページをご参照ください。

<https://www.jaesnet.org/research/publications/index.html>

○参考:査読スケジュールについて

現在、日本選挙学会は『選挙研究』論文投稿システムを通じて、投稿を受け付けています。受付終了後、査読委員会で審議を行い、匿名査読者の選定ならびに査読依頼をしております。したがって、当該論文の完成度にもよりますが、投稿から最初の査読結果が戻るまでに要する時間はおよそ3ヵ月です。修正・再査読となった場合、査読結果に応じて再投稿がなされてから、最終結果が出るまでに2ヵ月ほど要します。修正・再投稿にかかる時間によりますが、最初の投稿から最終結果の確定まで、6ヵ月ほどの時間を見込んでください。

したがって、今回の特集に応募して締切日までに投稿すれば、2025年10月までに査読のプロセスを終えて41巻2号に最終稿を入稿できることとなります。ただしこれは査読および再投稿が円滑に進んだ場合の想定ですので、必ずしも41巻2号への掲載が保証されるわけではないことをご理解ください。

なお、査読を経て掲載が決定した論文につきましては、年報編集委員長名で掲載決定の証明書を発行することが可能です。